

(案)

第 2 章

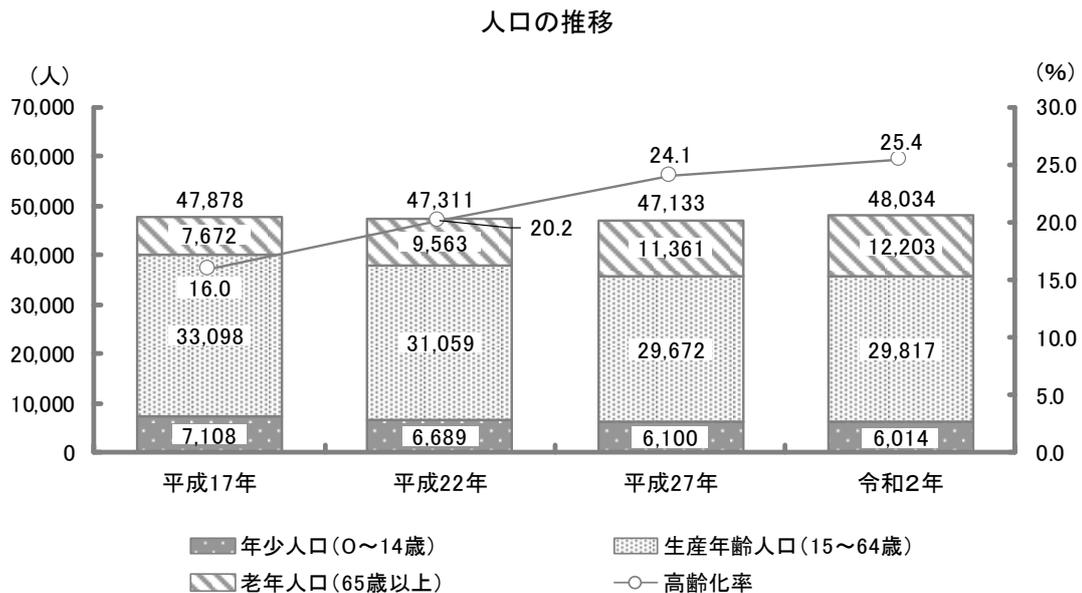
岩倉市の男女共同参画にかかるとの現状

1 統計データから見た市の現状

(1) 人口の状況

① 人口の推移

人口の推移をみると、総人口は平成 27 年より増加しており、令和 2 年で 48,034 人となっています。また、年齢 3 区分別人口構成の推移をみると、0～14 歳は減少しているのに対し、65 歳以上は増加しており、総人口における 65 歳以上の人口が占める割合を示す高齢化率は令和 2 年で 25.4%となっています。

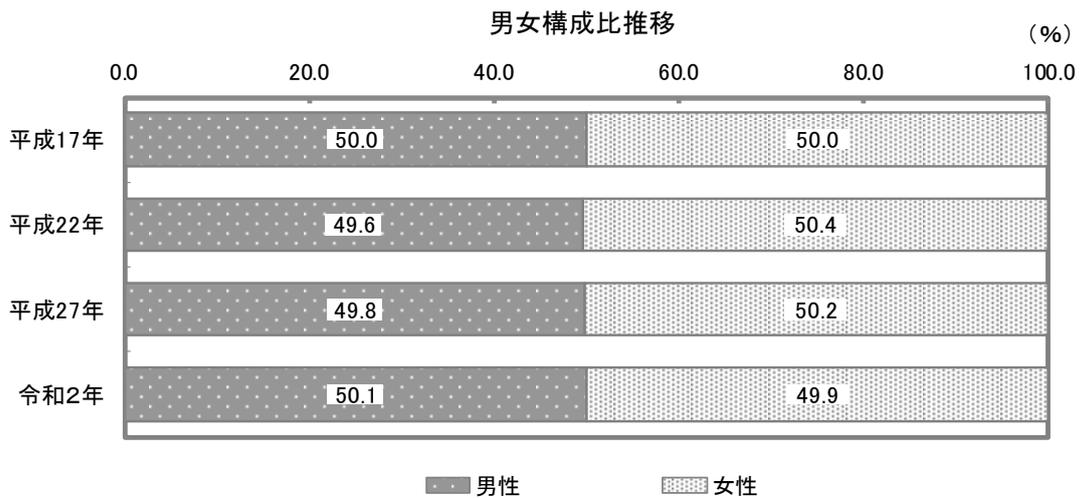


資料：平成 17～27 年は国勢調査、令和 2 年は住民基本台帳（10 月 1 日現在）
※年齢不詳は除外。

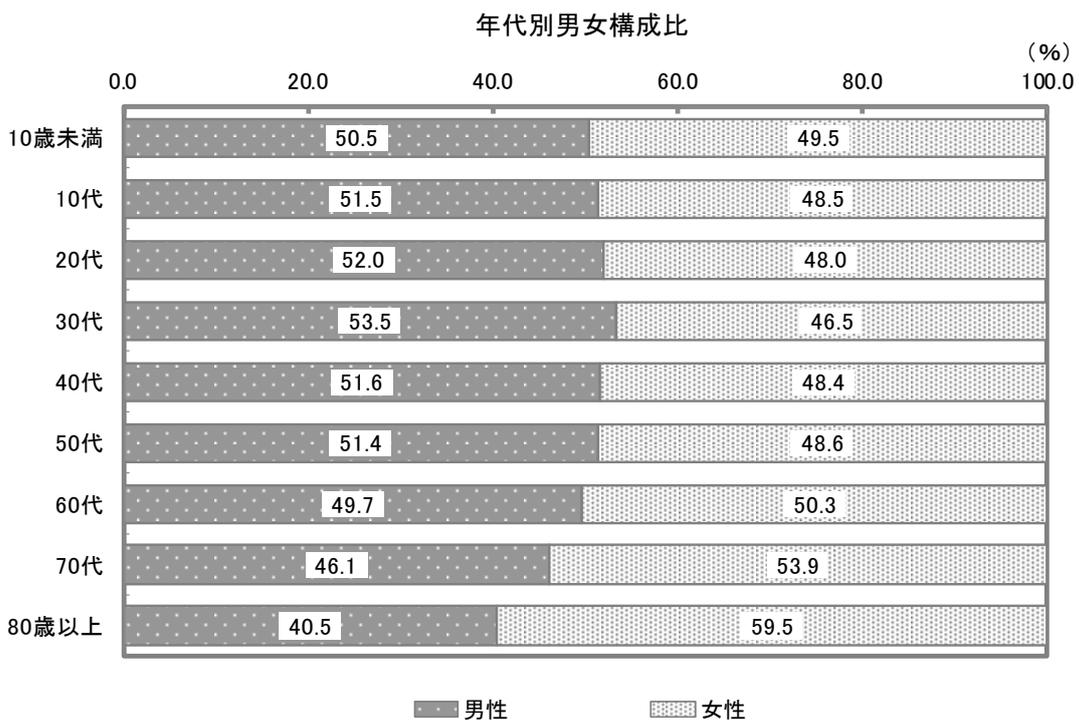
② 男女構成比

人口の男女構成比をみると、平成 17 年以降、わずかに男性の割合が女性の割合を下回っていましたが、令和 2 年では、男性が 50.1%、女性が 49.9%と男性の割合が女性の割合を上回っています。

年代別にみると、50 代までは男性の割合が高く、60 代以降は女性の割合が高くなっています。



資料：平成 17 年～平成 27 年は国勢調査、令和 2 年は住民基本台帳（10 月 1 日現在）
※年齢不詳は除外

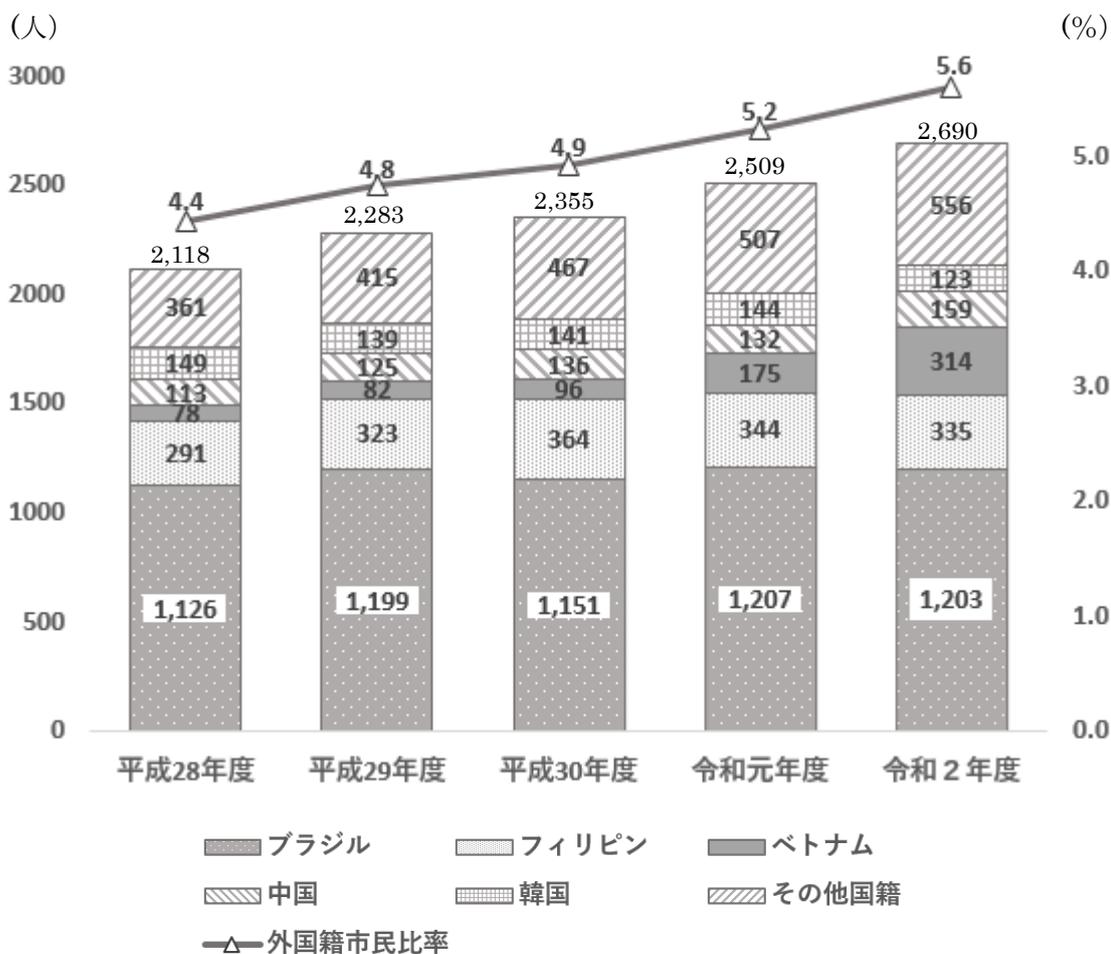


資料：住民基本台帳（令和 2 年 10 月 1 日現在）

③ 国籍別の外国籍市民の人口の推移

外国籍市民の人口の推移をみると、平成28年度以降増加傾向にあり、令和2年度で2,690人となっています。また、総人口に占める外国籍市民の割合は、令和2年度で5.6%となっています。

令和2年度の国籍別の人口をみると、最も多いのがブラジル国籍1,203人で、次いでフィリピン国籍335人、ベトナム国籍314人となっています。

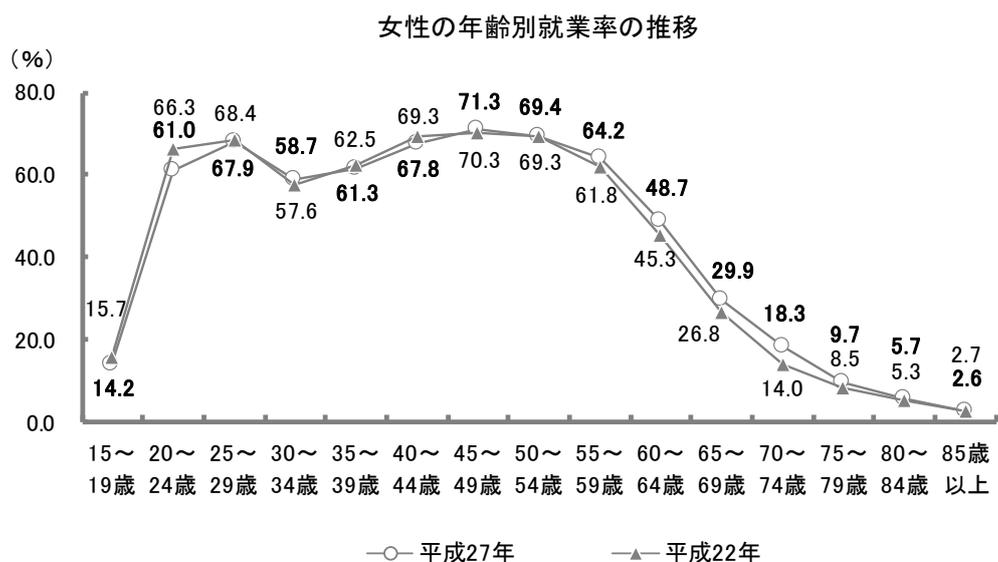


資料：住民基本台帳（各年度4月1日現在）

(2) 就業の状況

① 女性の年齢別就業率の推移

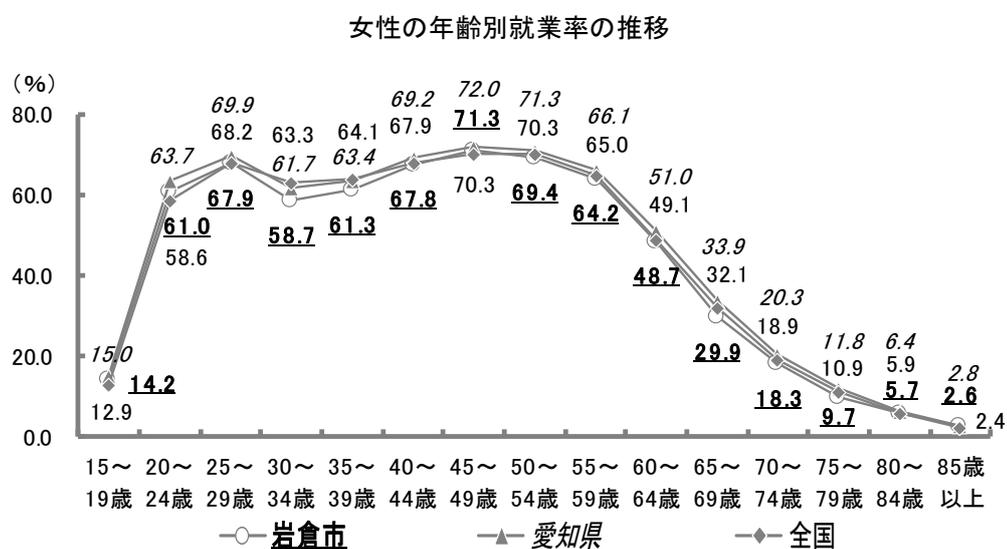
女性の年齢別就業率は、出産・育児期に落ち込み、再び増加するM字カーブを描いています。落ち込みの大きい30～39歳の就業率は平成22年に比べ平成27年でわずかに上昇し、近年ではM字カーブは緩やかになっています。



資料：国勢調査

② 女性の年齢別就業率の推移（県比較）

本市の平成27年の女性の年齢別就業率を全国、愛知県と比較すると、多くの年代で全国、愛知県より低くなっています。特に30歳代において、全国、愛知県より就業率が低くなっています。

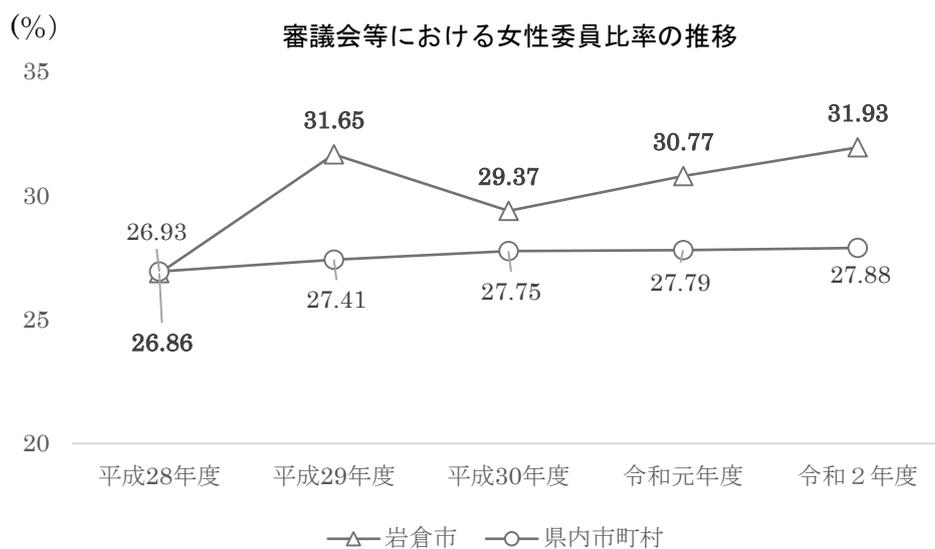


資料：国勢調査

(3) 女性の参画状況

① 審議会等における女性委員比率の推移

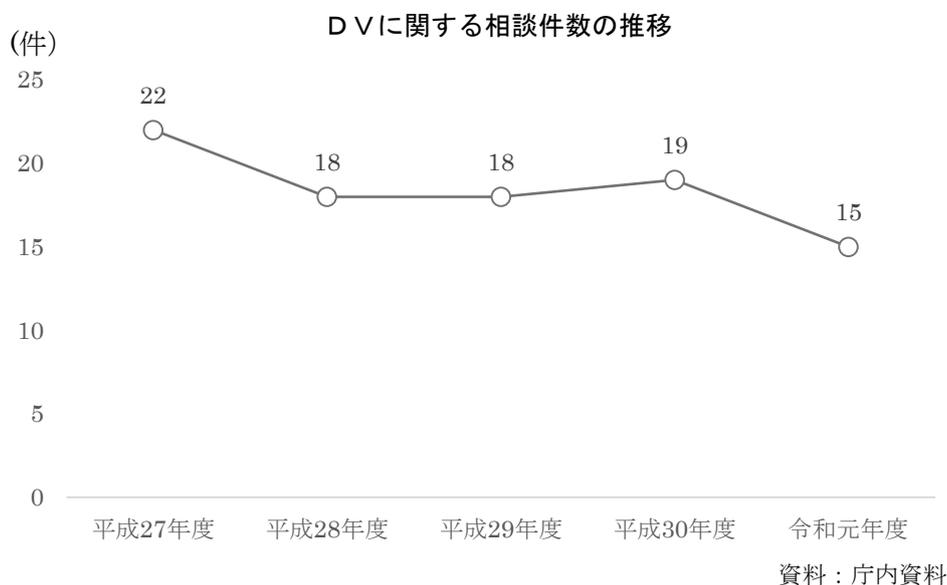
審議会等における女性委員比率の推移をみると、平成30年以降、増加傾向にあり、令和2年度で31.93%となっています。また、県内市町村と比較すると、平成29年度以降高くなっています。



資料：あいちの男女共同参画（各年度4月1日現在）

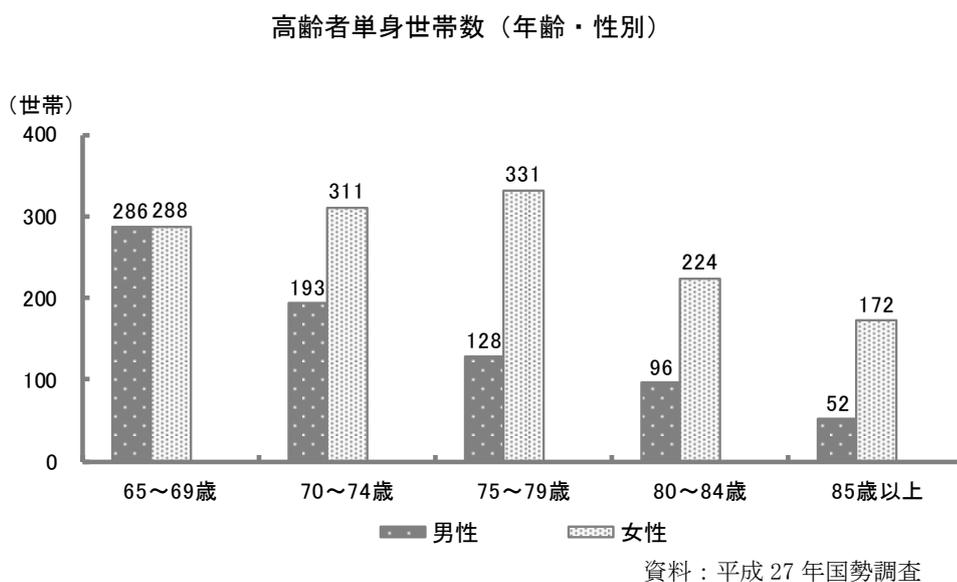
(4) DVに関する相談件数の推移

DVに関する相談件数の推移をみると、平成27年度以降減少傾向にあり、令和元年度では、15件となっています。



(5) 高齢者単身世帯数（年齢・性別）

高齢者単身世帯数（年齢・男女別）をみると、男性では65～69歳で286世帯と最も多く、次いで70～74歳で193世帯となっています。女性では75～79歳で331世帯と最も多く、次いで70～74歳で311世帯となっています。



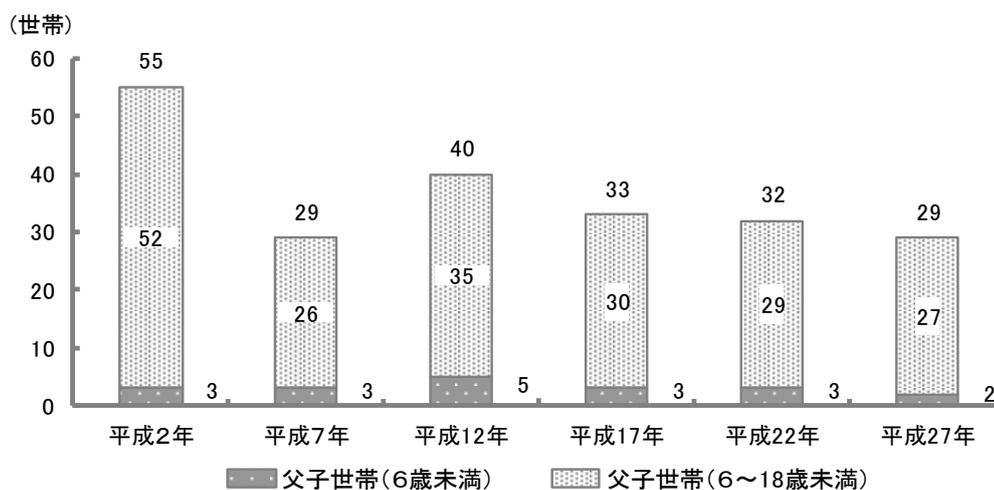
(6) その他

① ひとり親世帯数の推移

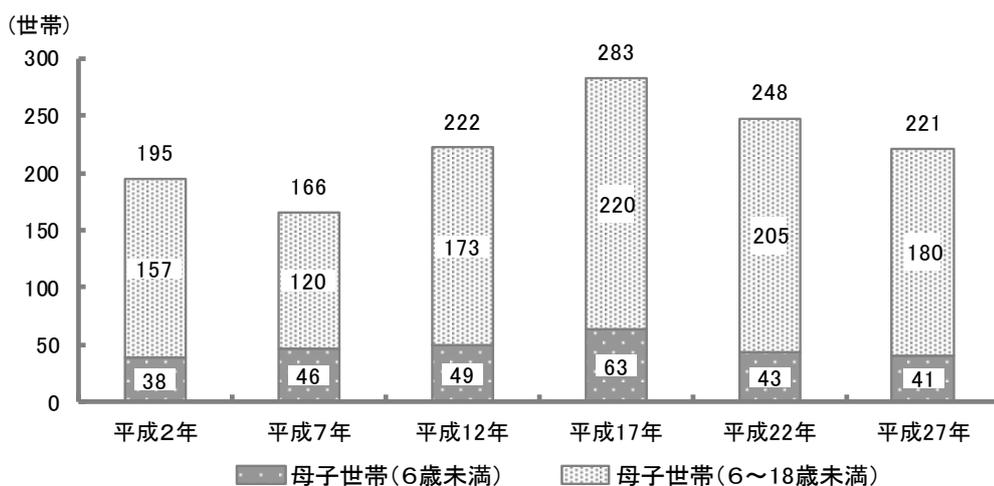
ひとり親世帯数の推移をみると、父子家庭は、平成2年から平成12年は増減を繰り返していましたが、平成17年以降は横ばいで推移しており、平成27年は29世帯となっています。母子家庭は、増減を繰り返しており、平成27年で221世帯となっています。

ひとり親世帯数の推移

〈父子家庭〉



〈母子家庭〉



資料：国勢調査

2 市民意識調査アンケート結果概要

(1) アンケート調査の概要

①調査の目的

市民の皆様のお考えやご意見を把握し、「岩倉市男女共同参画基本計画 2021-2030」策定の基礎資料として活用するため、アンケート調査を実施しました。

②調査の対象

岩倉市在住の満 18 歳以上の方、2,000 人を無作為抽出

③調査期間

2020 年（令和 2 年）8 月 13 日から 2020 年（令和 2 年）9 月 4 日まで

④調査方法

郵送による配布・回収

⑤回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	496 通	24.8%

(2) アンケート調査結果

①男女共同参画意識について

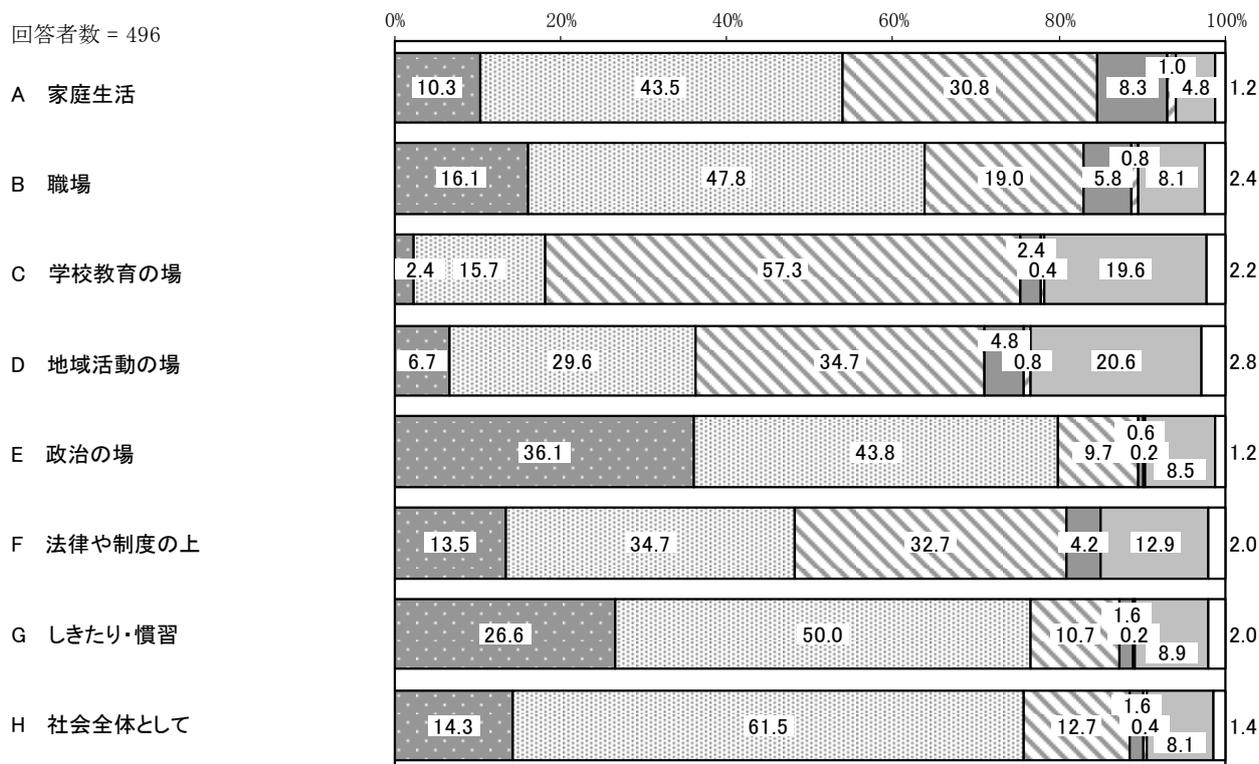
男女の平等感について

『E 政治の場』『G しきたり・慣習』『H 社会全体として』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が高く、7割を超えています。

また、『C 学校教育の場』で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 496

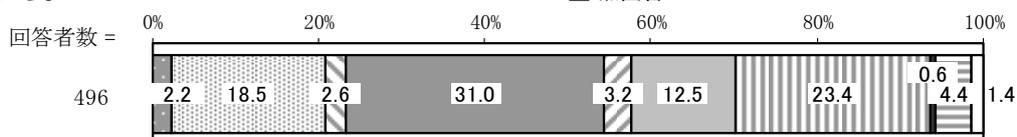


②多様なライフスタイルについて

ア 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（希望）

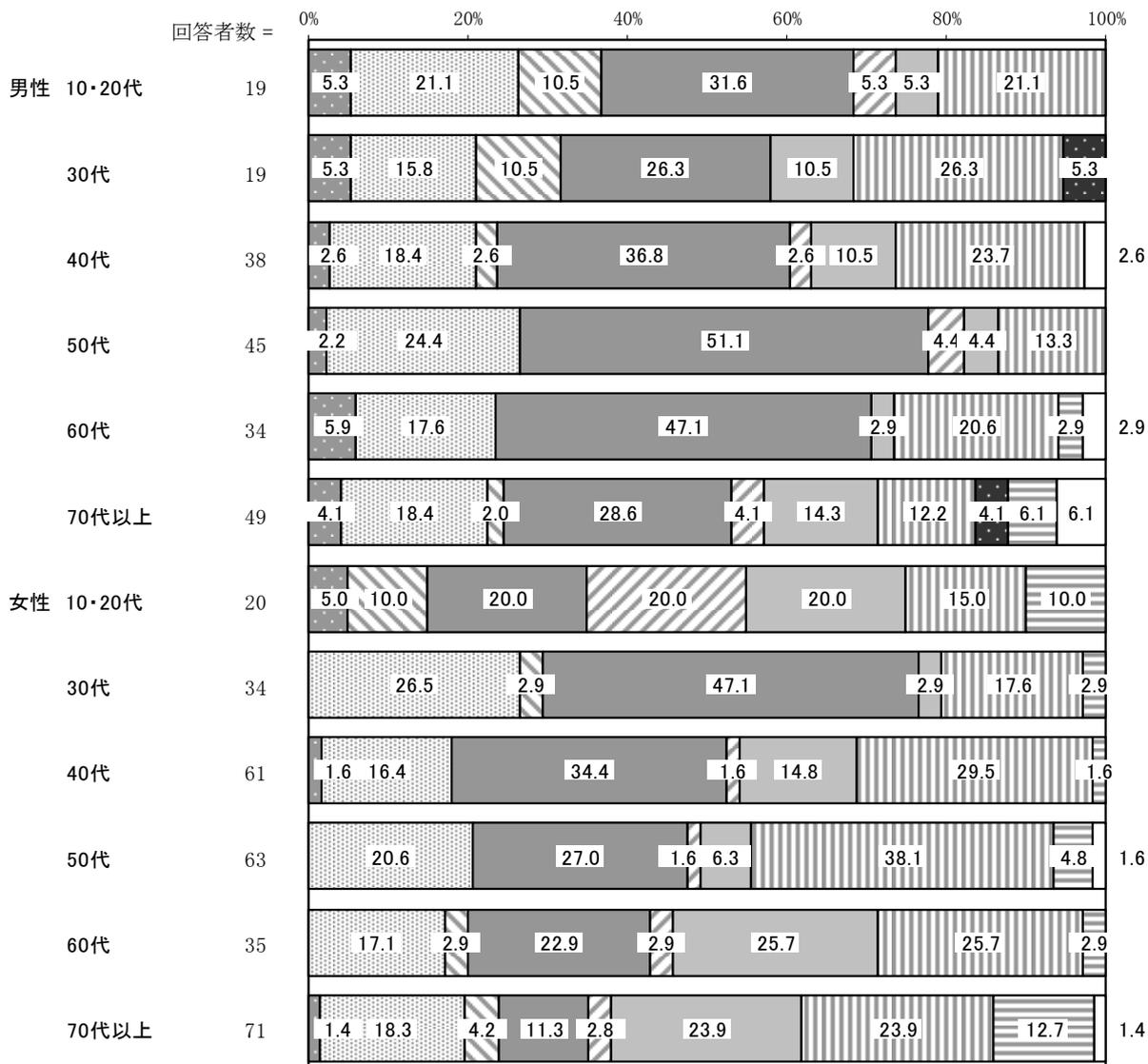
『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が31.0%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立したいの割合が23.4%、『家庭生活』を優先したいの割合が18.5%となっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立したい
- わからない
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- その他
- 無回答



【性・年齢別】

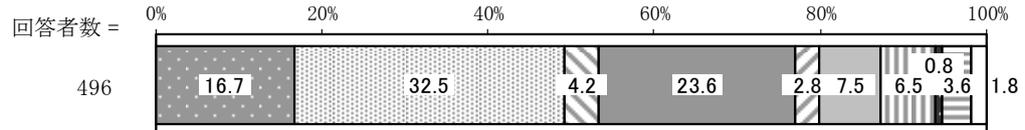
性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50代、60代、女性の30代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が高く、約5割となっています。



イ 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（現状）

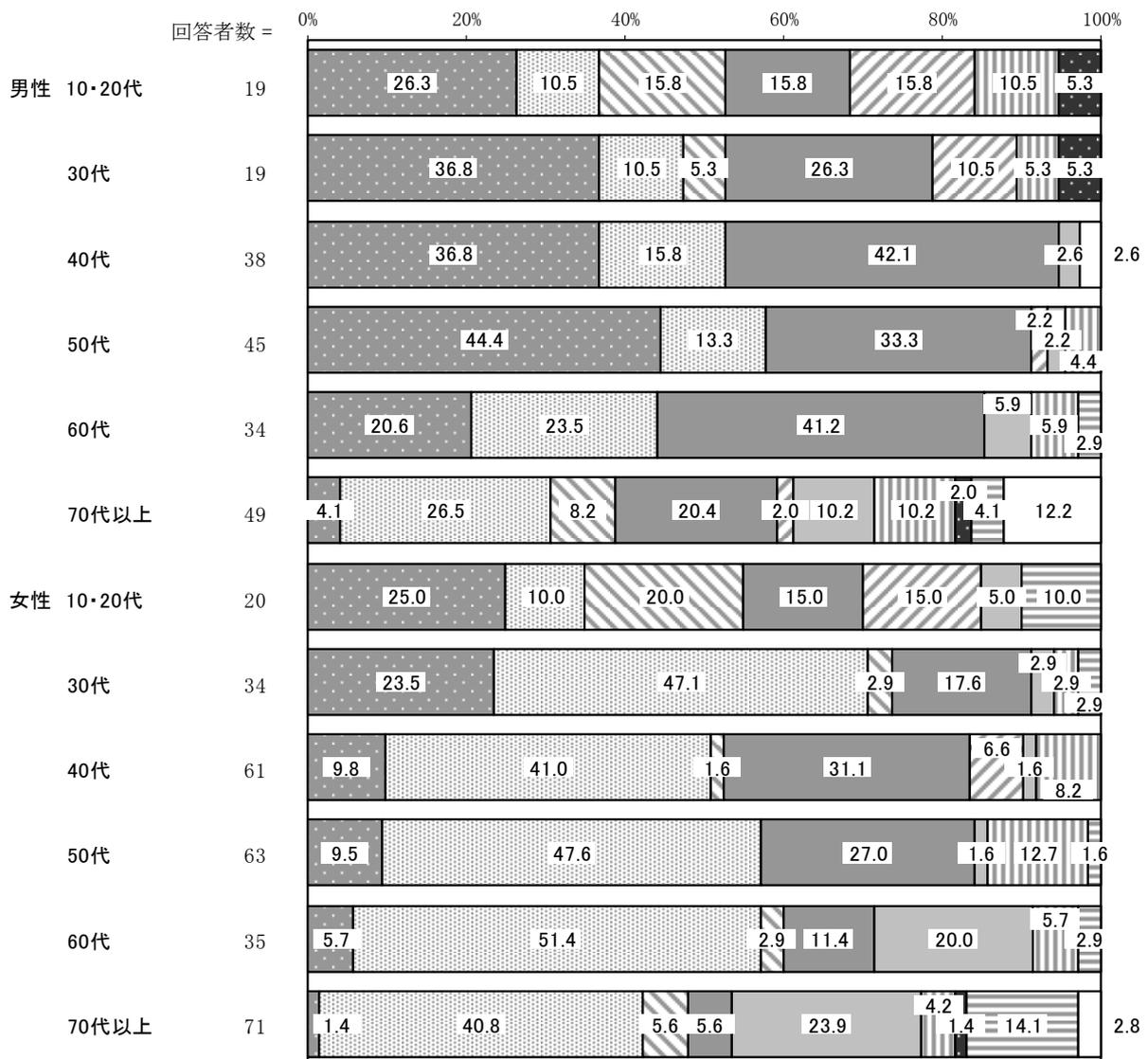
『家庭生活』を優先している」の割合が 32.5%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が 23.6%、『仕事』を優先している」の割合が 16.7%となっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している
- その他
- わからない
- 無回答



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30代、50代、60代で『家庭生活』を優先している」の割合が高く、約5割となっています。また、男性の50代で『仕事』を優先している」の割合が高く、4割半ばとなっています。

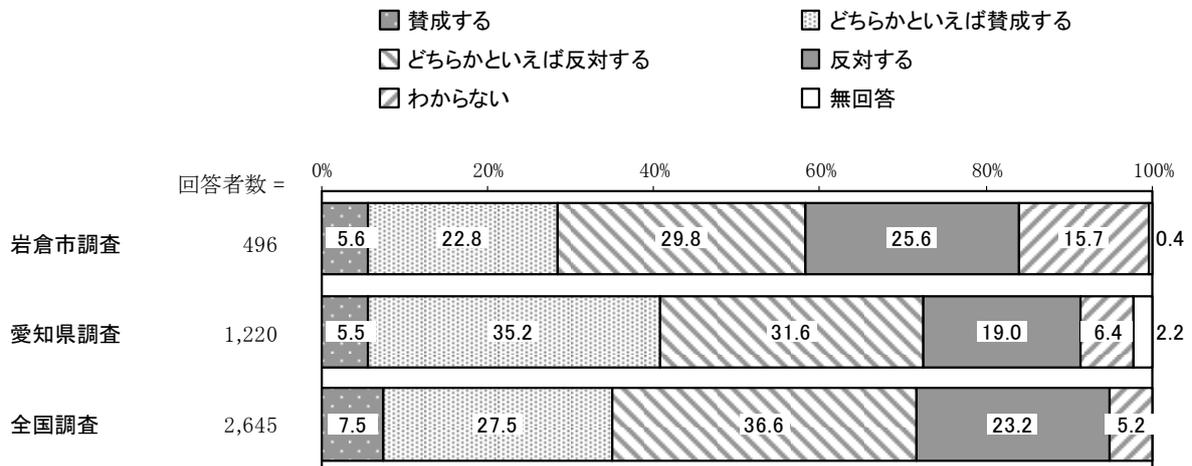


ウ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について

【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」をあわせた“賛成する”の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、“賛成する”の割合が低くなっています。

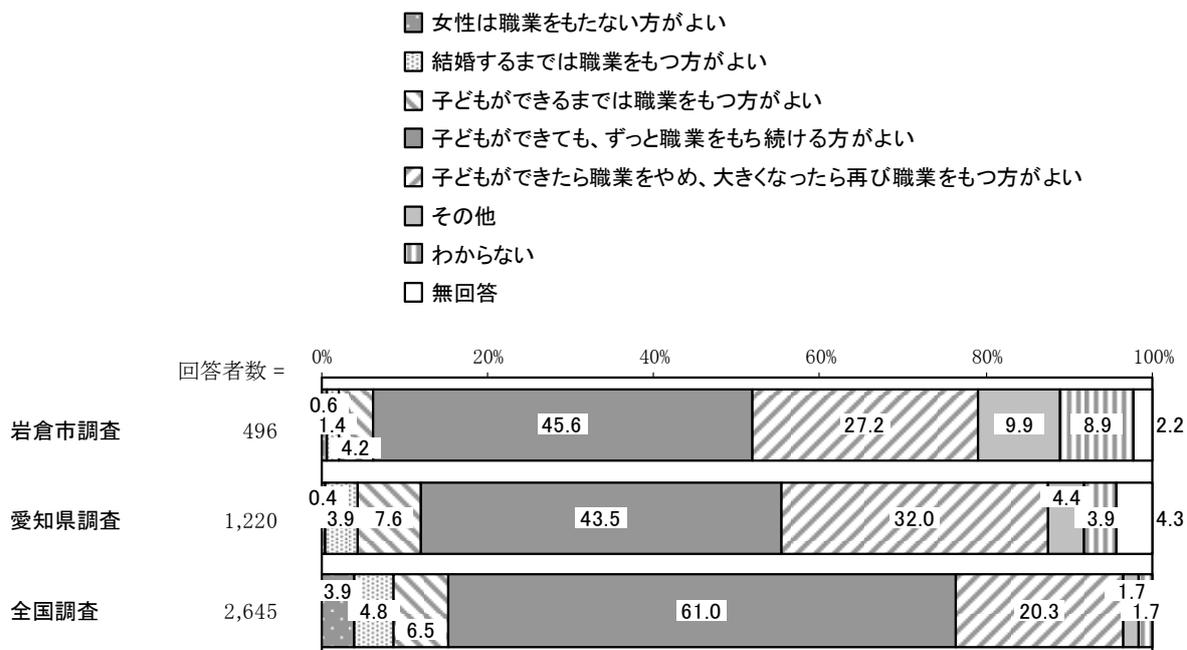


エ 女性の働き方についての考え方

【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、大きな差異はみられません。

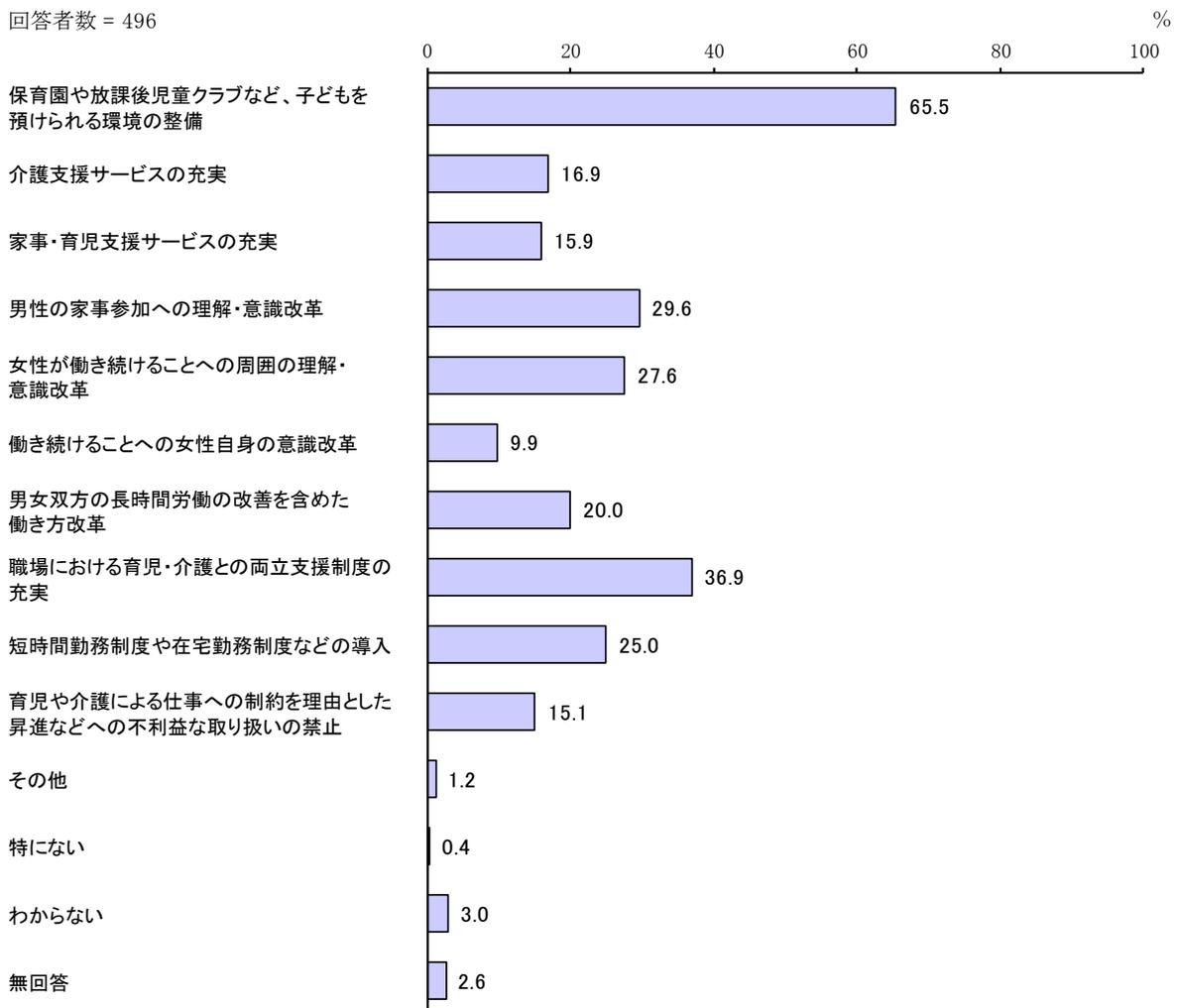
全国調査と比較すると、国に比べ、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」割合が低く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高くなっています。



オ 出産後も、同じ職場に復職し、働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと

「保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が65.5%と最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が36.9%、「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が29.6%となっています。

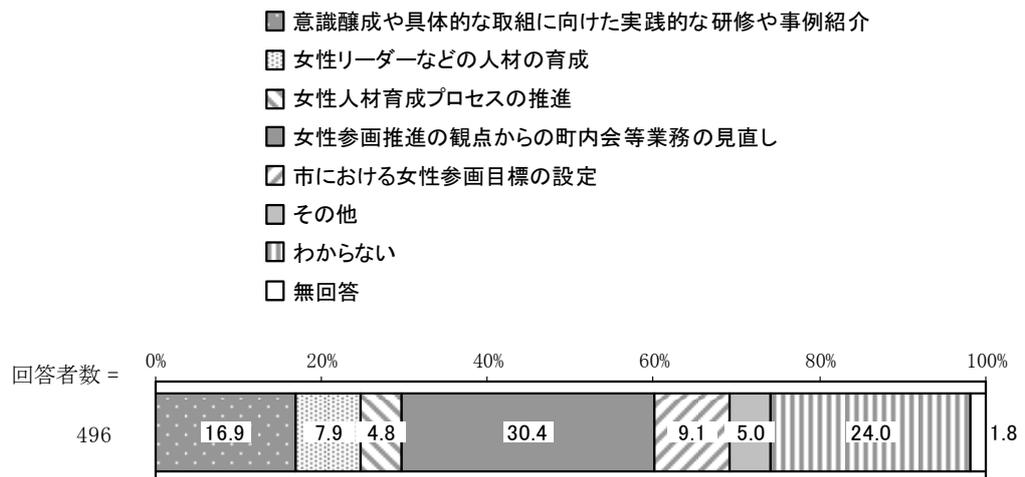
回答者数 = 496



③地域社会における男女共同参画について

ア 町内会等において女性が活躍するために必要なこと

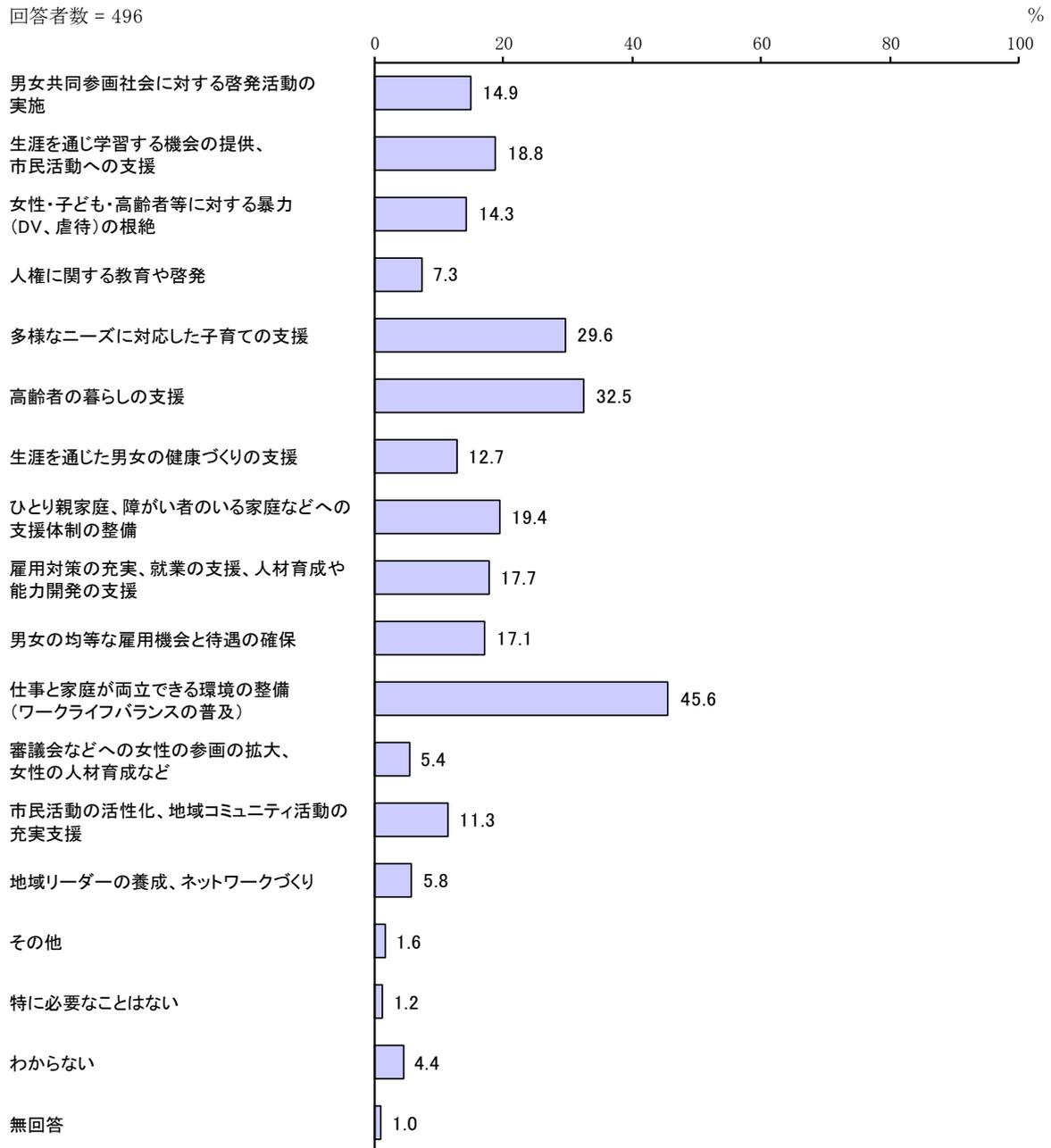
「女性参画推進の観点からの町内会等業務の見直し」の割合が30.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.0%、「意識醸成や具体的な取組に向けた実践的な研修や事例紹介」の割合が16.9%となっています。



イ 男女共同参画社会の実現に向け、今後力を入れていくべき施策の分野について

「仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）」の割合が45.6%と最も高く、次いで「高齢者の暮らしの支援」の割合が32.5%、「多様なニーズに対応した子育ての支援」の割合が29.6%となっています。

回答者数 = 496

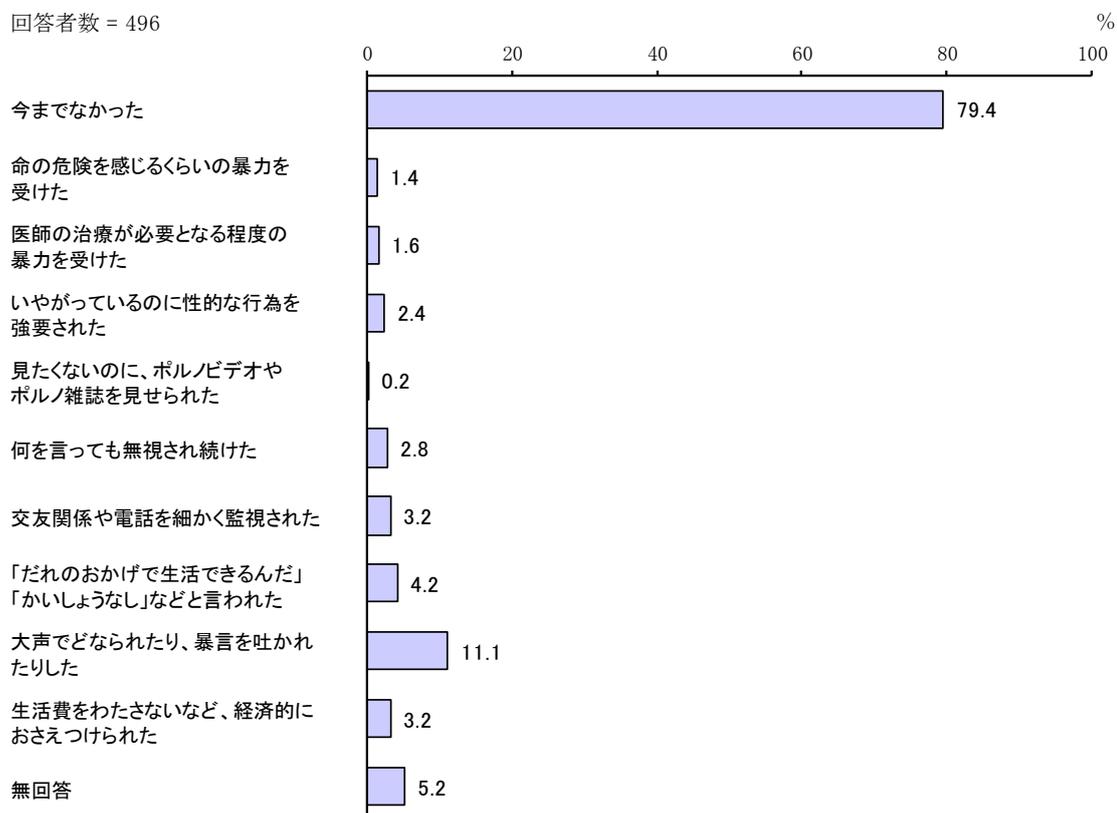


④あらゆる暴力の防止について

ア 配偶者や交際相手からどのような行為を受けた経験があるか

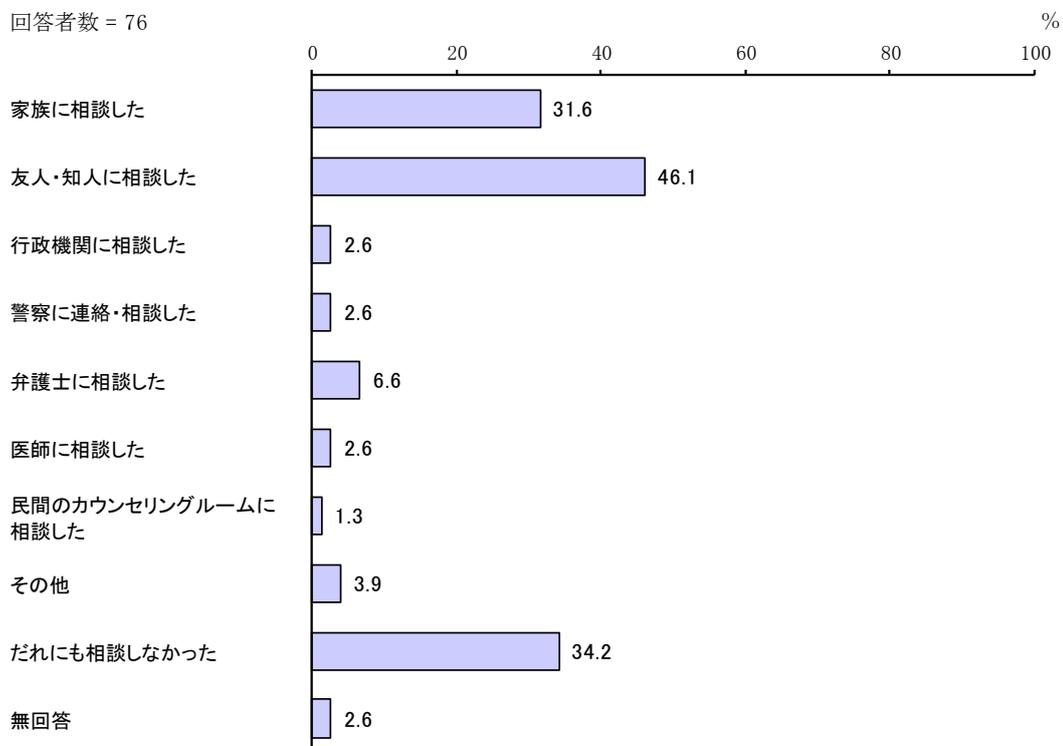
「今までなかった」の割合が79.4%と最も高く、次いで「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が11.1%となっています。

回答者数 = 496



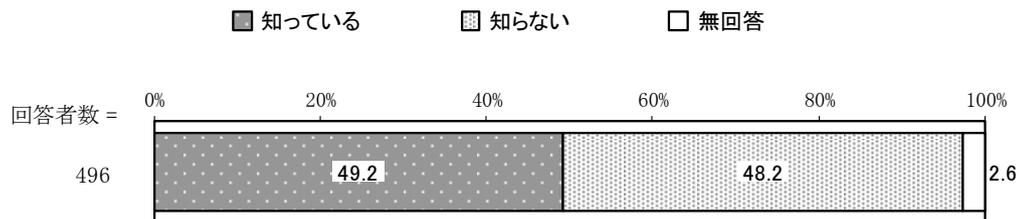
イ 暴力等の相談状況

「友人・知人に相談した」の割合が46.1%と最も高く、次いで「だれにも相談しなかった」の割合が34.2%、「家族に相談した」の割合が31.6%となっています。



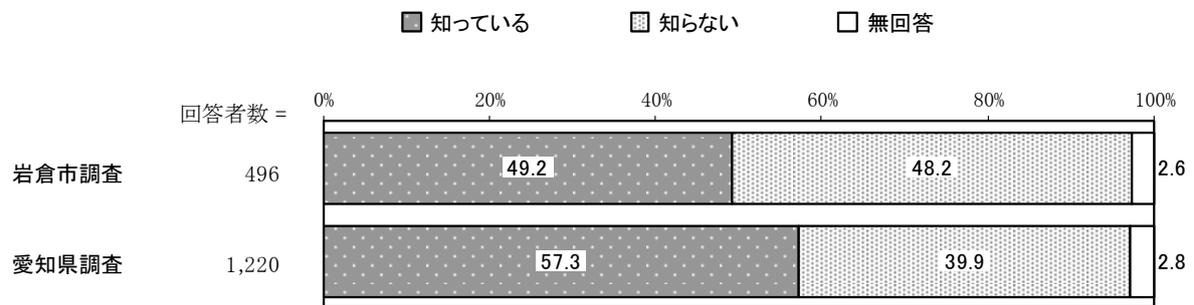
ウ 相談窓口の認知度

「知っている」の割合が49.2%、「知らない」の割合が48.2%となっています。



【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「知っている」の割合が低くなっています。



⑤性的少数者について

ア 性的少数者についての用語等の認知度

「性的少数者を表す言葉のうち、「LGBT」というものがあること」の割合が69.2%と最も高く、次いで「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを「カミングアウト」と呼ぶこと」の割合が65.5%、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」の割合が53.8%となっています。

回答者数 = 496

